

臨床研究審査結果通知書

受付番号 558

2020年11月24日

JA 北海道厚生連札幌厚生病院 院長 殿

JA 北海道厚生連札幌厚生病院 倫理委員会

委員長 内田 恒 印

審査依頼のあった件についての審査結果を下記のとおり通知いたします。

記

診療科	薬剤部
実施責任者	大下 瑚姫
課題名	外来でのレンバチニブ投与患者における薬剤師介入の有用性の検討
審査事項 (審査資料)	<input checked="" type="checkbox"/> 実施の適否 (様式 (1) (西暦 2020年11月6日付)) <input type="checkbox"/> 継続の適否 <input type="checkbox"/> 変更 (様式 (2) (西暦 年 月 付)) <input type="checkbox"/> 継続審査 (様式 (3) (西暦 年 月 日付)) <input type="checkbox"/> 有害事象 (様式 (4) (西暦 年 月 日付)) <input type="checkbox"/> 逸脱 (書 (西暦 年 月 日付)) <input type="checkbox"/> 安全性 (書 (西暦 年 月 日付)) <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> その他 ()
審査日	審査日: 2020年11月24日
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 承認
「承認」以外 の場合の理由	
備考	

2020年11月24日

申請者 殿

依頼のあった自主臨床研究に関する審査事項について上記のとおり決定しましたので通知いたします。

JA 北海道厚生連札幌厚生病院 院長 髭 修平 印



審査申請書

令和2年11月6日

JA北海道厚生連札幌厚生病院 院長 殿

(診療科長)

所属・職 薬剤部 薬局長

氏名 柴波 明男



(研究責任者)

氏名 大下 瑚姫



※ 受付番号

(受付番号は記入しないこと)

1 審査対象			
<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画	JA北海道厚生連札幌厚生病院単独の研究	
<input type="checkbox"/>		JA北海道厚生連札幌厚生病院を主幹機関とする多施設共同研究	
<input type="checkbox"/>		他施設を主幹機関とする多施設共同研究	
		(主幹機関名:)	
<input type="checkbox"/>	出版公表原稿		
<input type="checkbox"/>	その他 ()		
2 課題名 外来でのレンバチニブ投与患者における薬剤師介入の有用性の検討			
3 研究責任者	所属:薬剤部	職名:薬剤師	氏名: 大下 瑚姫
4 研究分担者 (全員記入)	所属:薬剤部	職名:薬剤師	氏名: 大久保 凜香
		薬剤師	松木 有莉
		薬剤師	石塚 仁保
		薬剤師	中野 裕介
		薬剤師	山下 友輝
		係長	桂川 みき
		薬局長代理	鈴木 千波
		薬局長代理	小原 秀治
		薬局長	柴波 明男
	所属:北海道科学大学	職名:講師	樋浦 一哉
	薬学部薬学科		
	臨床薬学部門		
	臨床薬学分野		
5 研究等の期間	倫理委員会承認日	～	2022年3月31日

6 研究等の概要

(1) 研究等の種類 *該当するものを一つ選択すること

- 医薬品又は医療機器を用いた、予防・診断又は治療方法に関する介入ⁱを伴う臨床研究ⁱⁱ
- 介入を伴う臨床研究（上記に該当するものを除く）
- 介入を伴わない臨床研究
- 疫学研究ⁱⁱⁱ
- その他（具体的に： _____）

(2) 背景、意義・目的

近年、がん化学療法において様々ながん種で使用されている「経口分子標的治療薬」は、がん細胞の増殖や成長に関与する特定の因子を標的とするため正常細胞への影響が少なく、殺細胞性抗がん剤で認められた悪心・嘔吐、骨髄抑制は比較的軽微である。¹⁾ そのため、患者の生活スタイルを維持しながら外来通院でも治療を継続しやすい。

現在、肝細胞がんの治療においてはソラフェニブ、レゴラフェニブ、レンバチニブの3剤が使用可能であり、外来通院での治療が広く行われている。一方で、これらの薬剤には高血圧や手足症候群、尿蛋白、甲状腺機能低下症などの特徴的な副作用の発現により治療が中断となることで、全生存期間が短縮してしまうとの報告²⁻⁴⁾もある。従って、長期投与のためには継続的な副作用モニタリングやマネジメントを行い、副作用による治療中断を減らすことが必要である。⁵⁾ そこで近年、外来がん化学療法施行患者に対して薬剤師の専門性を活かした積極的な関与が望まれている。⁶⁾

当院のがん化学療法は原則入院で導入するため、薬剤管理指導業務の一環として治療開始前のオリエンテーションや投与量の確認、入院中の副作用モニタリング、退院時指導などを薬剤師が行っている。しかし、退院後外来での継続的な副作用発現状況の確認やアドヒアランスの確認などは薬剤師が行えていなかったため、2018年から一部診療科において退院後も外来で化学療法を継続する患者に対し薬剤師の介入を開始した。さらに、2019年6月より消化器内科（肝臓内科）にも対象を拡大した。肝細胞がんの治療の中でも、レンバチニブは当院での使用実態調査において疲労・倦怠感や食欲不振により治療中断を余儀なくされるケースが多かったことを受け、今回レンバチニブ投与患者を対象に、外来において薬剤師が副作用やアドヒアランスの確認、指導を継続したことによる有用性を評価することとした。

薬剤師外来の有用性を評価した報告は多数あるものの、ほとんどが運用方法や介入事例に関するものである。⁷⁻⁹⁾ そこで本研究では、定量的評価を目的として、肝細胞がんに対するレンバチニブ服用患者を対象に、外来での薬剤師による介入開始前後の投与継続率を比較検討する。さらに、薬剤師の定期的な介入が治療継続率に与えた影響を評価するため、その介入内容と受諾率を調査する。

(3) 方法

札幌厚生病院において、レンバチニブの服用を開始した肝細胞がん患者のアセスメントシート、診療録を後ろ向きに調査する。

(4) 見込まれる結果

外来でのレンバチニブ投与患者における薬剤師の介入の有用性について明らかにすることが出来る。

自主臨様式 (1)

*該当する項目について、□にチェックすること。

*文章を記入する部分の行数の増減は自由。ただし、項目自体の削除はしないこと。

*臨床研究の新規申請の場合には、自主臨様式 (1) 別紙を添付すること。

-
- i 予防、診断、治療、看護ケア及びリハビリテーション等について、次の行為を行うことをいう。
- ①通常の診療を超えた医療行為であって、研究目的で実施するもの。
 - ②通常の診療と同等の医療行為であっても、被験者の集団を原則として2群以上のグループに分け、それぞれに異なる治療方法、診断方法、予防方法その他の健康に影響を与えられ得る要因に関する作為又は無作為の割付けを行ってその効果等をグループ間で比較するもの。
- ii 医療における疾病の予防方法、診断方法及び治療方法の改善、疾病原因及び病態の理解並びに患者の生活の質の向上を目的として実施される次に掲げる医学系研究であって、人を対象とするもの。
- ①介入を伴う研究であって、医薬品又は医療機器を用いた予防、診断又は治療方法に関するもの
 - ②介入を伴う研究 (①に該当するものを除く)
 - ③介入を伴わず、試料等を用いた研究であって、疫学研究をふくまないもの (=観察研究)
 1. 「医学系研究」には、医学に関する研究とともに、歯学、薬学、看護学、リハビリテーション学、予防医学、健康科学に関する研究が含まれる。
 2. 観察研究には以下のものを含む。通常の診療の範囲内であって、いわゆるランダム化、割付け等を行わない医療行為における記録、結果及び当該医療行為に用いた検体等を利用する研究
- iii 明確に特定された人間集団の中で出現する健康に関する様々な事象の頻度及び分布並びにそれらに影響を与える要因を明らかにする科学研究

7 研究の対象及び実施医療機関

(1) 対象者 *具体的な選択基準、性別、年齢、除外基準等を記載すること

レンパチニブが切除不能な肝細胞癌に対する適応を取得した2018年3月から2020年5月
末までに当院で投与を開始した患者

A) 介入群

外来受診時に薬剤師が面談し、アセスメントシートを記載している患者

B) 未介入群

外来受診時に薬剤師の面談を実施しておらず、看護師がアセスメントシートを記載して
いる患者

(2) 予定症例数

JA北海道厚生連札幌厚生病院 : 123 例

多施設共同研究の場合の総症例数 : 例

(3) 実施場所

JA北海道厚生連札幌厚生病院 (具体的な場所: 薬剤部)

共同研究機関 (全ての機関名:) *別紙リスト添付でも可

(4) 研究期間

倫理委員会承認日から 2022年 3月 31日まで

年 月 日から 年 月 日まで

(5) 試料等ⁱ⁾の採取及び利用

本研究のために、新たな試料等を取得又は採取して利用する。

新たな診療情報を取得する。

人体から新たに試料 (血液、組織等) を採取する。

採取は、被験者の診療等に必要な検査等を実施する際に、付随的に (研究
に使用する量を増量して) 行う。

採取は、被験者の診療等に必要な検査等とは別に行う。

本研究のために、新たな試料等の取得又は採取をしない。

既存試料等ⁱⁱ⁾を利用する。

既存の診療情報を利用する。

既存の人体から採取された試料 (血液、組織等) を利用する。

被験者の同意あり *同意を得た際の説明文書等を添付すること。

被験者の同意なし

研究開始前に新たに同意を得る。

新たに同意を得る予定はない。

既存試料等は利用しない。

その他 ()

8 研究における医学倫理的配慮について

(1) 研究の対象とする個人の人権擁護

① 「人権擁護」として遵守する宣言・指針 *チェックしたものは必ず読んでいること。

ヘルシンキ宣言 (必須)

人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (H29. 5. 28改正)

その他 ()

② 被験者の個人情報の保護に関する対策

匿名化の方法

氏名・生年月日・住所・電話番号の削除ⁱⁱⁱ⁾

個人識別符号が含まれない^{iv)}

匿名化しない

匿名化する場合の具体的な方法又は匿名化しない場合の理由:

③ その他 (具体的に):

(2) 研究の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

① インフォームド・コンセントのための手続きと方法

*下記3項目のうち、該当するものを一つ選択すること。

- 文書によりインフォームド・コンセントを得る。
 - 被験者から本研究への参加の同意を得るために用いる説明文書及び同意書は、JA北海道厚生連札幌厚生病院倫理委員会において承認を得たものを使用する。なお、同意取得にあたっては、研究責任者又は研究分担者が説明文書を用いて研究の内容等を説明する。被験者が説明内容を十分に理解したことを確認した上で、本研究への参加について本人の自由意思による同意を文書で取得する。同意に際して、説明を行った者は同意書に記名押印又は署名し、日付を記入する。
 - その他 (具体的に):

- 文書による説明及び文書による同意に代えて、説明の内容及び被験者から受けた同意に関する記録を作成する。
- インフォームド・コンセントを受けることを必ずしも要しないため、本研究の目的を含む研究の実施について必要な情報を公開し、必要に応じて研究への参加を拒否できるようにする。

② 被験者本人からインフォームド・コンセントを得ることが困難な場合の代諾者の選定

- 選定しない
- 選定する
 - 被代諾者の種類 *該当者を全て選択
 - 未成年 (16歳未満 16歳以上20歳未満)
 - 有効なインフォームド・コンセントを与えることができない成年人
 - 死者
 - その他 ()

*被験者が16歳以上20歳未満の場合は、代諾者と共に原則として本人の承諾を得る必要がある。

(3) 研究によって生ずる個人への不利益並びに危険性と医学上の貢献の予測

① 被験者に生ずる不利益並びに危険性の有無

*研究に伴う身体的・精神的に不快な状態を含む。例として、採血(生検)による痛み、かゆみ、出血による危険、留置による血栓、内出血、循環障害、被ばく、薬の副作用、高血圧、個人情報漏洩、医療費(経費負担)の支出増等。

- なし
- あり
ある場合その内容:

② 被験者に直接的にもたらされうる利益

- 直接的な利益なし
- 直接的な利益あり
ある場合その内容:

③ 研究によってもたらされうる医学上の貢献

具体的な内容:

レンパチニブ投与患者における、外来での薬剤師の介入開始前後の投与継続率を比較検討する。また、その介入内容と受諾率を調査する。本研究により、外来において薬剤師が副作用やアドヒアランスの確認、指導を定期的に行ったことによる有用性を明らかにできる。

<p>④被験者の費用負担</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり</p>
<p>9 本研究に伴い被験者に健康被害等の有害事象が生じた場合の補償</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 有害事象は生じない（理由：レトロスペクティブ調査のため）</p> <p><input type="checkbox"/> 保険診療による対応</p> <p><input type="checkbox"/> 保険診療以外の補償制度等の適用（制度名等： _____）</p> <p><input type="checkbox"/> その他（ _____ ）</p>
<p>10 研究終了後の対応</p> <p>(1) 研究成果の公表</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 被験者を特定できないようにした上で、学会や学術雑誌で公表する。</p> <p><input type="checkbox"/> 予定していない。</p> <p>(2) 研究終了後の試料等の保存</p> <p><input type="checkbox"/> 匿名化の上、全て廃棄する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 保存する。</p> <p>①試料等の種類：<input type="checkbox"/> 血液、組織等 <input checked="" type="checkbox"/> 電子データ <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）</p> <p>②匿名化の方法：<input checked="" type="checkbox"/> 氏名・生年月日・住所・電話番号の削除</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 個人識別符号が含まれない <input type="checkbox"/> 匿名化しない</p> <p>③保存期間：<input type="checkbox"/> _____ 年 _____ 月 _____ 日まで <input checked="" type="checkbox"/> 期限を定めない</p> <p>④保存場所：<input checked="" type="checkbox"/> JA北海道厚生連札幌厚生病院（具体的な保存場所：薬剤部）</p> <p><input type="checkbox"/> 共同研究機関（具体的な保存場所： _____ ）</p>
<p>11 その他</p> <p>(1) 研究資金源 *該当するものを全て選択</p> <p><input type="checkbox"/> 科学研究費補助金以外の省庁等の公的研究費（資金名： _____）</p> <p><input type="checkbox"/> 受託研究費・共同研究費</p> <p><input type="checkbox"/> その他の資金（資金名： _____）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 研究費は必要としない。</p> <p>(2) 本研究に伴う利益相反（Conflict of Interest：COI、利害の衝突）について</p> <p>*本研究に関与する企業・団体との間で想定される下記の項目について、該当するものを全て選択。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 利益相反は起こらない。</p> <p><input type="checkbox"/> 本研究の実施によって、本務である教育・研究・診療等に支障を来す可能性がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 企業等から、研究資金以外の謝金等の支払いや、特許権の共有・譲渡がある。または、当該企業の株式（未公開株・ストックオプションを含む）を所有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 企業等との間に、顧問等の非常勤を含む雇用関係や、親族・師弟関係等の個人的関係がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 企業等から、研究資金以外に機器や消耗品等の提供を受けている。</p> <p>(3) 臨床研究登録データベースへの登録</p> <p>*臨床研究のうち、侵襲性を有する介入研究の場合は登録が必要である。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 登録不要</p> <p><input type="checkbox"/> 研究開始前に登録予定 *多施設共同研究で、主幹機関が登録する場合を含む。</p> <p><input type="checkbox"/> 知的財産等の関係で登録できない。</p> <p>(4) ホームページ等での研究課題名等公開の可否</p> <p>*倫理委員会の議事要旨の概要を公開するため、原則公開とする。否の場合は、特許申請を予定しているなど具体的な理由を記載すること。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 可</p> <p><input type="checkbox"/> 否（不掲載理由： _____）</p>

12 参考文献等一覧 *論文は、著者名、タイトル、刊、ページ、年の順に記載。

- 1) 土谷順彦, 羽瀧友則, 固形腫瘍における分子標的薬の現状と課題, *Drug Delivery System*, **25**, 134-142, 2010.
- 2) Cho JY, Paik YH, Lim HY, Kim YG, Lim HK, Min YW, Gwak GY, Choi MS, Lee JH, Koh KC, Paik SW, Yoo BC, Clinical parameters predictive of outcomes in sorafenib treated patients with advanced hepatocellular carcinoma, *Liver Int*, **33**, 6950- 6957, 2013.
- 3) Otsuka T, Eguchi Y, Kawazoe S, Yanagita K, Ario K, Kitahara K, Kawasoe H, Kato H, Mizuta T, Skin toxicities and survival in advanced hepatocellular carcinoma patients treated with sorafenib, *Hepatol Res*, **42**, 879-886, 2012.
- 4) Di Costanzo GG, de Stefano G, Tortora R, Farella N, Addario L, Lampasi F, Lanza AG, Cordone G, Imparato M, Caporaso N, Sorafenib off-target effects predict outcomes in patients treated for hepatocellular carcinoma, *Future Oncol*, **11**, 943-951, 2015.
- 5) 小野寛之, 龍田涼佑, 中原良介, 田中遼大, 伊東弘樹, 肝細胞がん患者を対象とした薬剤師による lenvatinib 外来への介入とその有用性の検討, *医療薬学*, **46**, 303-313, 2020.
- 6) 奥田泰考, 森美鈴, 須藤俊明, 藤井博文, 外来化学療法における薬剤師外来での支持療法への関わり, *癌の臨床*, **63**, 249-252, 2017.
- 7) 岩崎博幸, 菅沼伸康, 中山博貴, 吉田達也, 山中隆司, 吉田明, 当院における甲状腺癌に対する分子標的薬における連携プログラム, *内分泌甲状腺外会誌*, **32**, 154-158, 2015.
- 8) 栗山朋子, 山本和宏, 池田剛久, 橋本正良, 西岡達也, 比米学, 槇本博雄, 矢野育子, 平井みどり, 「薬剤師外来」における薬学的処方介入とその評価, *医療薬学*, **44**, 169-175, 2017.
- 9) 福長豊己, 森川記道, 西倉強子, 高橋裕子, 西原昌幸, 外来がん化学療法患者の症状把握を目的とした「治療日記」の作成とそれを用いた薬剤師外来の有用性について, *日本病院薬剤師会雑誌*, **54**, 997-1005, 2018.

13 添付資料一覧

■ 実施計画書

■ 説明文書・同意文書

□ その他、倫理委員会事務局が必要と判断するもの

- 症例報告書の見本 (データシート)
- 使用医薬品の添付文書等
- 本院が主体となって行う他施設共同研究の場合、全実施施設の研究責任者との実施についての合意文書の写し
- 当該研究を行うことの必要性、安全性、有効性等を説明する論文

自主臨様式 (1) 別紙

*該当する項目について、□にチェックすること。

*文章を記入する部分の行数の増減は自由。ただし、項目自体の削除はしないこと。

i 臨床研究に用いようとする血液、組織、細胞、体液、排泄物及びこれらから抽出した DNA 等の人の体の一部並びに被験者の診療情報（死者に係るものを含む。）をいう。ただし、学術的な価値が定まり、研究実績として十分認められ、研究用に広く一般に利用され、かつ、一般に入手可能な組織、細胞、体液及び排泄物並びにこれらから抽出した DNA 等は、含まれない。なお、診療情報とは、診断及び治療を通じて得られた疾病名、投薬名、検査結果等の情報をいう。

ii 次のいずれかに該当する試料等をいう。

①本臨床研究計画書の作成時までに既に存在する試料等

②本臨床研究計画書の作成時以降に収集した試料であって、収集の時点においては本臨床研究に用いることを目的としていなかったもの

iv 個人識別記号とは、特定個人の身体の一部の特徴を電子計算機のように供するために変換した文字、番号、記号その他の符号であって、当該特定の個人を識別することができるもの。

v 利害の衝突とは、研究者等が研究の実施や報告の際に、金銭的な利益やそれ以外の個人的な利益のためにその専門的な判断を曲げてしまう（もしくは曲げたと判断される）ような状況を示す。

この利害の衝突は、金銭的な利害の衝突とそれ以外の利害の衝突に分類できる。

金銭的な利害の衝突とは、研究者等が資金提供や研究依頼のあった者・団体（政府、財団、企業等）から、臨床研究に係る資金源の他に機器や消耗品等の提供を受けること、実施料を受け取ること、その株式を所有（未公開株やストックオプションを含む）すること、特許権を共有・譲渡されること、講演料や著述料の支払いを受けていること等である。

それ以外の利害の衝突とは、研究者等が資金提供や研究依頼のあった者・団体との間に顧問等の非常勤を含む雇用関係があることや、親族や師弟関係等の個人的関係があることなど、研究者等の関連組織との関わりについての問題などが考えられる。

上記の様な利害の衝突の中でも、明示的に確認することが出来る①資金源等の金銭上の利害の衝突②研究者等の関連組織との関わりについては少なくとも記載するべきである。（臨床研究に関する倫理指針Q & Aより抜粋）